

# 「日本女性会議2011まつえ」に参加して

開催日:平成24年10月14日(金)～16日(日)

場所:島根県 松江市

参加者:安里邦子(JA西原支店女性部)

「語ろう・紡ごう、“だんだん”の縁(え)にしを世界へ」という大会テーマで2011年10月14日(金)から16日まで日本女性会議が島根県松江市で開催されました。

10月14日(金)分科会は10の分科会に分かれ、私は第8分科会「歴史化を活かした地域づくり」に参加しました。

パネリストの事例報告者 金本道子さんは出雲市中央通り商店街で画廊の経営者です。2002年頃中央通り拡幅工事に伴い「新しい街路のあり方」を官民協力で作業に入ったとき、初の女性道路開発メンバーとして参加し、出雲國風土記や出雲神話をたずねる機会をつくり神話を活かした町づくりをめざしたそうです。その他、田和山サポートクラブの発表もありました。

10月15日(土)には全体会があり、岡島敦子 内閣府男女共同参画局長による、国の男女共同参画施策の現状と「第3次男女共同参画計画」による今後の取り組みの説明がありました。女性が一人も登用されていない組織の解消に向けた働きかけを行う。条例を変えるのは簡単だが、習慣を変えるのは難しいと基調報告があった。

記念講演は「エプロンはずして夢の山」と題し、登山家 田部井淳子先生の講演があり、妻であり母である田部井先生は、1975年に世界最高峰8,848mエベレストに女性世界初の登頂に成功し、1992年には女性で世界初の七大陸最高峰登頂や南極登山にも成功された方でした。登山家としての体験から、自分自身の歴史を作り、開けて透けて、キラキラと先女でない生き方をしたい。一番必要なものは、本当にやるうという意思の強い人、心の中から燃え上がる意思こそ力であると語られていました。

シンポジウムからは3名の発表があり、一人目の「橋本ヒロ子さん(国連女性の地位委員会日本代表)」によると、世界から見た日本女性の社会的地位は134カ国中94位であり、(1)女性の政治参加が進まない。(2)女性の経済力が低い(3)社会的にジェンダー意識が強く男女の役割が固定化している。(4)法制度(配偶者控除、所得税法、年金の第3号被保険者制度)も不十分である。と主張していました。二人目の「岩田喜美枝さん(資生堂副社長)」は(1)第1子を出産するために6割が辞めている(2)育児がひと段落して再就職しても、非正規雇用ではなかなか女性の管理職は生まれてこない。と主張し、今回の大震災では、被災地の要望に応じて、水のいらぬシャンプーなどを送ったそうです。最後の発表者「福間正久さん(元島根県男女共同参画審議委員)」は、ご自分が定年退職したことを機に、リタイア生活の目標として(1)「粗大ゴミ」「濡れ落ち葉」にならないよう家庭内で自立する。(2)無縁だった地域に貢献し、新しい仲間をつくる(3)時間を忘れて一人遊びできる「趣味」を見つける という目標を立て、地域の同年代にも呼びかけ、読み聞かせ講座なども受講するようになり、現在は予想以上のリタイア生活を楽しんでいるとのことでした。

最後に、「しまね女性センター」によって作成された男女共同参画カルタを紹介して報告を終わりたいと思います。

**〔最優秀賞〕**  
「おい!」じゃない、名前があると、おばあちゃん父は家事、これがわが家の マニフェスト  
初体験 君は産休 僕育休

**〔入賞〕**  
家事とくい、今は男の、売り文句  
家庭では、通用しない、管理職  
ケンカして、男の子だって、泣いていい  
声だけで、男に代われと、言う電話  
自立せぬ、夫に育てた、はいりこみ  
ままごと、共同参画、はいるこみ  
宝物、パパオジナル、父子手帳  
単身で、妻の苦勞を、思い知る  
都合良く、女だからと、役のがれ  
家事育児、分かち合うから、パートナ  
中締めで、やっと女性ら、筆をとり  
プロポーズ、女がしたら、おどろかれ



全国から多くの参加があった交流会の様子

# 男女共同参画のための研究と実践の交流フォーラム

西原町女性団体連絡協議会事務局長 浦崎 成子

2012年、10月21日～23日に開催された、国立女性教育会館(略称、ヌエック埼玉県在)の「NWECフォーラム2011 <男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム>」へ女団協の一員として町の補助金を受けて参加しました。本当に多くのことを学ぶことができ、感謝いたします。日頃の活動にいかすことができました。

このフォーラムは、会館設立時から続いており、全国からの参加者延べ千人規模で開催されます。

このフォーラムの魅力は多数あり、その1つに参加者の多彩な顔ぶれがあげられます。関係省庁、全国農山漁業の女性従事者、地域活動する女性団体参加者、NGO、国・県・市町村議員、女性学研究者、男女共同参画推進行政担当者等々文字どおり全国の女性が参加します。今回も参加者の中に他県の友人知人や、戦後日本の米軍攻下における「婦人會政策」研究者の方に偶然お会いしたりと、興奮することしきりでした。

2つ目に、会場が近ければ毎年参加したいほど、参考になるワークショップが数多く網羅されるという点です。そして、喧嘩を離れ木々に囲まれ広々とした会館は、朝から夜まで続く研修に集中できる自然環境を提供してくれます。

さて、今回設定されたワークショップは、50あり、会館提供のものは4点、会館主催シンポジウムは1点でした。私は、前日から宿泊し、次のフォーラムに参加しました。

- 1.日本女性差別撤廃条約NGOネットワークの「国連女性差別撤廃委員会に、日本はこう答えた!」では、日本の女性政策の低調さにつながりさせられた。
- 2.大田区立男女平等推進センターの「成功する方針決定過程への女性の参画事業 アラフォー女性リーダーの育て方」は、西原でも女性団体の高齢化が深刻なのでこの取り組みは早急に検討したいと思う。
- 3.女性としごとの未来研究会「戦後の男女平等を進めた幻灯と紙芝居」は、啓発事業の初心の姿は今も活かせるという、ヒントを得た。
- 4.JAWW(日本監視機構)「農山漁村女性と災害復興」では、漁協統廃合による真珠養殖業の衰退に驚愕させられた。
- 5.山川菊栄記念会「山川菊栄ドキュメンタリー」は、山川の優秀な行政官僚としての一面を知ることができた。
- 6.会館提供シンポジウム「災害・震災復興と地域づくりー男女共同参画社会への展望」は、吉村美栄子氏(山形県知事)、鈴木素雄氏(河北新報社論説委員長)、外。被災者、支援担当者としての貴重な報告とシンポでした。

また夜には、虫の鳴く中でボランティアの主催する茶会があり、秋を堪能しました。このフォーラムに毎年、宜野湾市は、行政担当者と婦人會から計3名の女性が参加しており夜更けまで交流し、宜野湾の女性団体の層の厚さが理解出来ました。来年も西原町の参加者があることを期待しています。



あなたも女性のための県外研修(男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム・日本女性会議)に参加してみませんか?詳しい募集内容は最後のページにありますので、ぜひ奮ってご応募下さい!